

4-4 文化人類学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野の研究・教育活動では、参与観察という人類学の基本的方法に立脚して社会と文化のあり方を実証的に研究することに高い価値を置いている。

学部教育においては、概論を基礎とし、それに加えて二年次に基礎講読と基礎演習によって民族誌の読み方を学ばせ、三年時に演習と実習で文献研究と実態調査を平行して経験させ、その上に卒論を置くという積み重ね式のカリキュラムを組んでいる。

大学院教育においては、前期課程だけを履修する学生と後期課程まで進む学生では当然ながら目標設定と指導方法に違いがあるが、前者においては学生の希望に応じて特定地域あるいは特定テーマに関する文献研究または特定対象についての短期的な実態調査に基づく修士論文の作成を目標とし、後者においては前期課程において特定地域に関する総合的な文献研究を行ったうえで後期課程において長期的かつ集約的なフィールドワークに基づく博士論文の作成を通して専門研究者としての独自の領域を開拓することを目標としている。いずれにおいても各自が独力で具体的な民族誌研究に取り組む力を養うことを重視し、それに向けて全員で進捗状況を報告しつつ研鑽する「院生研究会」を毎月1回開催しており、それに加えて各教員は個別のきめ細かな指導に心がけている。留学生の大学院進学者については、日本でフィールドワークを行い、民族誌的な修士論文・博士論文を作成することを促している。

2名の教員の専門領域はいずれも東アジアだが、大学院生の研究対象地域はアフリカやヨーロッパ、アメリカなど世界各地に広がっている。また学部・大学院を通じて海外留学を目指す学生が多いことも特徴である。

組織

1 教員数(2012年9月末現在)

教授：1

准教授：1

講師：0

助教：0

教授：沼崎一郎

准教授：川口幸大

2 在学学生数（2012年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
37	0	5	2	0

3 修了生・卒業生数（2007～2011年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
07	13	0	1
08	9	5	0
09	9	0	1
10	10	1	0
11	0	0	0
計	42	8	4

* 2011年度は、9月末までの数字

過去5年間の組織としての研究・教育活動（2007～2011年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
07	0	0	0
08	0	0	0
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
計	3	0	3

* 2011年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

松本尚之、2006年度、『植民地時代以降の国家政策と社会 - ナイジェリア・イボ社会におけるエゼの誕生をめぐって - 』

審査委員：教授・嶋陸奥彦（主査）、教授・沼崎一郎、教授・吉原直樹・教

授・和崎春日（名古屋大学）

川口幸大、2006年度、『文化をめぐる国家と村落社会の相互交渉 - 東南中国における死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織を通して - 』

審査委員：教授・嶋陸奥彦（主査）、教授・沼崎一郎、教授・鈴木岩弓、教授・瀬川昌久（東北大学東北アジア研究センター）

久保田亮、2009年度、『アメリカの周縁に生きる人びとの民族誌 - 先住民 - 国家関係の歴史動態とチュピックの日常 - 』

審査委員：教授・嶋陸奥彦（主査）、教授・沼崎一郎、教授・吉原直樹、教授・岸上伸啓（国立民族学博物館）

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 （学会誌等）	非審査制誌 （紀要等）	論文集 （単行本）	その他	計
07	3	1	0	2	6
08	0	2	0	1	3
09	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
計	3	3	0	3	9

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
07	1	0	10	0	11
08	0	0	7	0	7
09	0	1	0	0	1
10	0	0	1	0	1
11	0	0	0	0	0
計	1	1	18	0	20

* 2011年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

松本尚之 「現代ナイジェリアにおける祭りの政治性：新しい地域社会の形成とその文化の担い手たち」、『東北人類学論壇』6、2007。

川口幸大 「現代中国の村落社会における春節」『東北人類学論壇』6、2007。

Kawaguchi, Yukihiro, "Tradition as Cultural Capital: Dragon Boat Festival in Pearl River Delta, Guangdong," *Annual Report, 2006*, The 21st Century Center of Excellence Program, Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Tohoku University. 2007。

杉本 敦 「現代ルーマニア農村事情 - 山村のゴスボダリエの変容を中心に」、『東北人類学論壇』8、2009。

王 煥 「伝統を伝えていく：仙台市における「雀踊り」保存団体の事例研究」、『東北人類学論壇』8、2009。

(2) 口頭発表

松本尚之 「植民地時代以降の国家政策と社会 - ナイジェリア・イボ社会におけるエゼの誕生をめぐって -」、第 119 回東北人類学談話会（日本民族学会地区研究懇談会）2007.3.9。

川口幸大 「文化をめぐる国家と村落社会の相互交渉 - 東南中国における死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織を通して -」、第 119 回東北人類学談話会、2007.3.9。

Kubota, Ryo, "Social Functions of School in a Native Village in Alaska", Center of Social Stratification and Inequality Workshop, Tohoku University, Sendai, Japan (March 13, 2007).

杉本 敦 「ポスト社会主義ルーマニアにおける土地の利用と意味 - トランシルヴァニアの一山村の事例より -」日本文化人類学会 第 43 回研究大会、2009.5.30。

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2007年度

大学院 1名 バルセロナ大学（スペイン）

2009年度

学部 3名 インドネシア大学（インドネシア）、雲南民族学院（中国）、
外国語学院（カナダ）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
07	0	1	1
08	1	0	1
09	2	1	3
10	1	1	2
11	0	1	1
計	4	4	8

6 社会人大大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
07	1	1	2
08	0	0	0
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
計	1	1	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

渋谷 努 東北大学文学研究科 21st COE プログラム「社会階層と不平等研究」
研究員、2003年度（2005年度まで）

渋谷 勉 中京大学国際教養学部国際教養学科、教授、2009年4月 -

松本尚之 東北大学・大学院文学研究科、助手、2003 - 5年度

松本尚之 東洋大学 国際共生社会研究センター 研究助手、2007年4月 -

松本尚之 横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程、専任講師、2009年
4月 - 2010年3月

松本尚之 横浜国立大学教育人間科学部国際共生社会課程、准教授、2009年4

月 -
川口幸大 国立民族学博物館機関研究員、2007 - 9 年度
川口幸大 東北大学・大学院文学研究科、准教授、2010 年 4 月 -
久保田亮 東北大学・大学院文学研究科、助教、2007 年 10 月 - 2010 年 3 月
久保田亮 立教女学院短期大学・英語科、講師、2010 年 4 月 -

7- 2 専攻分野出身の高度職業人

6 名 翻訳業、外務省外郭団体、JICA、高校教員(3 名)、仙台市職員(2 名)

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『東北人類学論壇』（年刊）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2007 年度 東北人類学談話会事務局
東北人類学談話会研究会（5 回）
2008 年度 東北人類学談話会事務局
東北人類学談話会研究会（4 回）
2009 年度 東北人類学談話会事務局
東北人類学談話会研究会（5 回）
国際シンポジウム「台湾研究の過去・現在・未来」
2010 年度 東北人類学談話会事務局
東北人類学談話会研究会（4 回）
人類学フェスティバル
2011 年度 東北人類学談話会事務局
東北人類学談話会研究会（5 回予定）
人類学フェスティバル

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況

なし

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

文化人類学研究を支える基本は緻密なフィールドワークであり、博士学位論文に向けてのフィールドワークは研究者としての土台を形成する最も重要なステップである。従って専門研究者養成のための大学院教育はその準備と現地調査の実施を中心に組み立てなければならない。本研究科における文化人類学専攻分野は1993年度に新設されたが、草創期の試行錯誤段階を経て、博士課程前後期を通じた本格的な教育プログラム策定に至ったのは発足から5年目の1997年度だった。そのプログラムに従って前期課程において綿密な準備を行い、しっかりとした調査計画を練ったうえで、2年から3年のフィールドワークを行った学生は通算5名おり、その調査地はフランス、モロッコ、ナイジェリア、中国、アラスカ、ルーマニアの各地にわたっている。

過去5年間に限っては、アラスカで調査を行った学生1名が2009年度に博士論文を提出し、ルーマニアで調査をおこなった学生1名が博士論文を執筆中である。

2007年度には仙台市職員1名が博士課程後期の課程に社会人として入学し、職務の傍ら、仙台市の多文化共生施策に関する公共人類学的な研究によって博士学位取得を目指している。こうした需要に応えるべく、博士課程後期の課程において、応用人類学・実践人類学の教育プログラムを充実させたいと鋭意努力中である。そのため、2008年度～2010年度にかけて、科研費を取得して異文化共生の公共人類学的研究を実施し、仙台市国際交流協会等との実践的な研究交流ネットワーク作りを行った。

この5年間の大きな変化は、博士課程前期の課程を修了して教員あるいは公務員を目指す学生が顕著に増加したことである。2008年度に2名、2010年度に1名が修士学位取得後自治体等に就職している。こうした学生の需要に応え、博士課程前期の課程においても、応用的・実践的な研究教育に取り組み始めている。

学部生の教育においても、従来同様フィールドワークを中心とした教育に応用的・実践的な訓練を加味するため、文化人類学実習と有機的に連携した仙台市国際交流協会におけるインターンシップを2010年度に開始した。2010年度は1名、2011年度は3名が、同協会のインターンとなっている。

フィールドワーク以外にも海外へ向かう学生たちの意欲はきわめて高いものがあり、学部・大学院を通じてほぼ毎年複数の学生が海外留学をしている。その留学先もアメリカ、スウェーデン、ベトナム、中国、韓国、メキシコ、アルゼンチン、ルーマニア、

スペインなどきわめて多様である。

留学生の受け入れに関しても同様で、ほぼ毎年複数の学生を受け入れており、双方向的国際学術交流の実績を積んでいる。

本専攻分野が運営事務を引き受けている東北人類学談話会は年間5回前後の研究発表会を開催しており、大学院生を主体とする研究会も活発に活動を展開している。また研究成果発表のために2002年度に創刊した『東北人類学論壇』は、大学院生のフィールドワークに基づく学術論文を中心とするが、卒業論文のなかでも調査資料として貴重な成果をあげたものは研究ノートとして掲載している。このジャーナルは通常の製本雑誌態のほか、電子ジャーナルとしてホームページ上にも公開している。

2010年度からは、学部生のための研究発表と交流の機会を設けるため、東北地方の諸大学と協力して人類学フェスティバルを秋に実施している。

教員の研究活動（2007～2011年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

嶋 陸奥彦 「調査地に見る韓国社会の変容」、朝倉敏夫・岡田浩樹編『グローバル化と韓国社会 - その内と外』、国立民族学博物館調査報告 69:17-29、2007.

嶋 陸奥彦 「アパート団地開発地区の露店商街」、伊藤亞人・韓敬九編『中心と周縁から見た日韓社会の諸相』、慶應義塾大学出版会、pp.39-65、2007.

嶋 陸奥彦 「家族・親族慣行にみる伝統の相互交渉 - フィールドワークと文書のあいだ - 」、『韓国朝鮮文化研究』6号、pp.92-123、2007.

嶋 陸奥彦 「韓国の地域社会の長期的展開 「門中の時代」再考 」、『東北人類学論壇』7:1-37、2008.

嶋 陸奥彦 「韓国農村における地縁的社会単位（“自然村/自然部落”）再考」、『東北人類学論壇』8:1-21、2009.3.

沼崎 一郎 「社会の多元化と多層化 - 1990年以後のエスニシティと社会階層」、沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』アジア経済研究所（近刊）

川口 幸大 「現代中国の村落社会における春節」、『東北人類学論壇』第6号、pp. 23-38、2007.3.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Tradition as Cultural Capital: Dragon Boat Festival in Pearl River Delta, Guangdong.” In *The 21st Century Center of Excellence Program*,

Tohoku University. Center for the Study of Social Stratification and Inequality,
Annual Report, 2006. pp.120-127, 2007.3.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Kinship Organizations and Social Stratification in Late Imperial China: A Study Based on Lineage in the Pearl River Delta.” In Shima Mutsuhiko(ed.), *Status and Stratification: Cultural Forms in East and Southeast Asia*, pp. 63-94. Victoria, Australia: Trans Pacific Press, 2007.3.

川口 幸大 「社会変動のなかの宗族組織 中華民国期の広東省珠江デルタの事例から」 『国立民族学博物館研究報告』 第33巻3号, pp. 453-487, 2009.2.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Lineage Revival and an Attempted Feud: Rethinking Kinship and Identity in Chinese Society.” In *The Tohoku University Global COE Program. The Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Annual Report, 2009*. pp.30-34, 2010.3.

川口 幸大 「村落の社会変化と祭祀空間としての家の変遷」 『近代中国革命、社会転型與国際視野 第四届現代中国與東亞格局国際学術研討会 論文集』 pp.159-183, 2010.8。

川口 幸大 「孟蘭節の鬼祭祀にみる神・鬼・祖先の現在」 鈴木正崇編 『東アジアにおける宗教文化の再構築』 pp.57-80, 風響社, 2010.10。

川口 幸大 「廟と儀礼の復興、およびその周縁化 現代中国における宗教のひとつの位相」 小長谷有紀・川口幸大・長沼さやか(編) 『中国における社会主義的近代化 宗教・消費・エスニシティ』 pp. 3-26, 勉誠出版, 2010.12.

川口 幸大 「珠江三角洲的墳墓與祖先祭祀」 『“中華文明視野下的西樵文化” 国際学術研討会 會議論文集』 pp.289-296, 2011.7。

川口 幸大 「中国村落社会與親族組織的轉變 以珠江三角洲的宗族為例」 周太平・包文勝(編) 『百年中国與周辺地域』 pp.101-107, 2011.8。

川口 幸大 「械闘未遂事件にみる親族の「つながり」の現在 広東省珠江デルタの一村落の事例から」 高谷紀夫・沼崎一郎編 『つながりの文化人類学』 東北大学出版会、(近刊)

KUBOTA, Ryo, “Performing Arts as the Symbol of Cultural Empowerment”,
Center for the Study of Social Stratification and inequality Annual Report
2006, pp.173-180. 2007.3.

久保田 亮 「現代ユピピックの「生き方」と金鉱開発プロジェクト」 pp.161-192,
岸上伸啓編著 『みんなく実践人類学シリーズ4 北アメリカ先住民の社会経

済開発』明石書店, 2008.11.

久保田 亮 「法概念「サブシステム」の成立 - 先住民権保障へのドミナント文化の影響」『東北人類学論壇』8:22-53.2009.3

久保田 亮 「チュピック村落社会の学校にみる先住民の自律」窪田幸子・野林厚志編『「先住民」とは誰か』世界思想社, 2009.10.

1- 2 著書・編著

嶋 陸奥彦『韓国 道すがら』、草風館、2006.4 .

SHIMA, Mutsuhiko (ed.), *Status and Stratification: Cultural Forms in East and Southeast Asia*, Melbourne, Australia: Trans Pacific Press, (2008.3.)

嶋 陸奥彦『つれづれなる日々』レター出版 (2010.2)

嶋 陸奥彦『韓国社会の歴史人類学』、風響社、(2010.3)

沼崎 一郎 (高谷紀夫と共編)『つながりの文化人類学』、東北大学出版会、(近刊)

沼崎 一郎 (佐藤幸人と共編)『交錯する台湾社会』、アジア経済研究所、(近刊)

川口 幸大 (小長谷有紀・長沼さやかと共編)『中国における社会主義的近代化 宗教・消費・エスニシティ』、勉誠出版 2010.12.

川口 幸大 『東南中国における伝統のポリティクス 珠江デルタ村落社会の死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織』、風響社、(2011.12.刊行予定)

1- 3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

嶋 陸奥彦 「伊藤亞人さんの人類学と韓国研究」、伊藤亞人先生退職記念論文集編集委員会(編)『東アジアからの人類学』、風響社、pp.291-298、2006.3.

嶋 陸奥彦 「人類学と朝鮮社会史 - 個人的越境の体験 - 」、『朝鮮史研究会論文集』第47輯、pp.5-21, 2009.10.

嶋 陸奥彦 「列車はどこへ?」、『韓国朝鮮の文化と社会』8号、pp.230-234, 2009.10.

沼崎 一郎 「政治と権力」綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房, pp.100-109, 2006.10 .

沼崎 一郎 「文化相対主義」綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂 ,pp.55-72, 2006.12 .

沼崎 一郎 「なぜ男はセクシュアル・ハラスメントを「選ぶ」のか セクハラ

- 加害者の実像と対策」労働教育センター『季刊 女も男も 自立・平等 - 』
第 109 号, pp.54-59, 2007.5 .
- 沼崎 一郎 「家庭におけるハラスメント対策 DV被害者支援の教訓」『メンタルヘルスの社会学』第 13 巻, pp.5-8, 2007.11.
- 沼崎 一郎 「台湾の新しい不平等」原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一編『社会階層と不平等』放送大学教育振興会, pp.137-150, 2008.3.
- 沼崎 一郎 「書見台 信田さよ子著『加害者は変わるか—DVと虐待をみつめながら—』」『アディクションと家族』25 巻 3 号, pp.229-234, 2008.10 .
- 沼崎 一郎 「現代台湾のエスニシティと政治—書評『台湾外省人の現在』—」『東方』334 号, pp.31-34, 2008.12 .
- 沼崎 一郎 「意思決定」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善書店, pp.22-25, 2009.10 .
- 沼崎 一郎 「文化相対主義」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善書店, pp.776-779, 2009.10 .
- 沼崎 一郎 「男性と暴力」加藤千香子・細谷実編『ジェンダー史叢書 5 暴力と戦争』明石書店, pp.105-110, 2009.10.
- 沼崎 一郎 「なぜ加害者は暴力をふるうのか」石井朝子編『DV支援者ガイドライン』明石書店, pp.31-37, 2009.11.
- 沼崎 一郎 「同時代の男性学 殺す男たち」天野他編『新編日本のフェミニズム 12 男性学』岩波書店, pp.303-306, 2009.12.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 ウルサイ “目覚まし時計になる”」『看護教育』51 巻 1 号, 2010.1 .
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 授業をデザインする」『看護教育』51 巻 2 号, 2010.2 .
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 初回の授業の 3 つのポイント」『看護教育』51 巻 3 号, 2010.3 .
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 情熱的恋愛の神話を崩す」『看護教育』51 巻 4 号, 2010.4 .
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 ドメスティック・バイオレンス」『看護教育』51 巻 5 号, 2010.5 .
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 性差別と性暴力」『看護教育』51 巻 6 号, 2010.6 .

- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 性差別と性暴力」
『看護教育』51巻6号, 2010.6.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 ブック・レポート
の使い方」『看護教育』51巻7号, 2010.7.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 ジェンダーの多様
性と可変性」『看護教育』51巻8号, 2010.8.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 性別は2つ?」『看
護教育』51巻9号, 2010.9.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 現代日本のジェン
ダー」『看護教育』51巻10号, 2010.10.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 セクシュアリティ
の多様性と可変性」『看護教育』51巻11号, 2010.11.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 「お決まり」のセ
クシュアリティに気づく」『看護教育』51巻12号, 2010.12.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 ヘテロセクシズム
とホモフォビア」『看護教育』52巻1号, 2011.1.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 現代医療と性」『看
護教育』52巻2号, 2011.2.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 女性にとってのリ
プロダクティブ・ヘルス/ライツ」『看護教育』52巻3号, 2011.3.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 男性にとってのリ
プロダクティブ・ヘルス/ライツ」『看護教育』52巻4号, 2011.4.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 性と生殖の支配と
管理」『看護教育』52巻5号, 2011.5.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 「母性」ってある
の?」『看護教育』52巻6号, 2011.6.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 「専業主婦」幻想
を砕く」『看護教育』52巻7号, 2011.7.
- 沼崎 一郎 「誌上FD 気づきと目覚めのジェンダー教育 教室を超えて」『看
護教育』52巻8号, 2011.8.
- 沼崎 一郎 (高谷紀夫と共著)「序章」高谷紀夫・沼崎一郎編『つながりの文
化人類学』東北大学出版会、(近刊)

- 沼崎 一郎 (佐藤幸人と共著) 「序章」沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』アジア経済研究所、(近刊)
- 川口 幸大 翻訳 パトリシア・B・エブリーとジェームズ・L・ワトソン著「王朝時代後期中国(1000-1940年)における親族組織・序文」瀬川昌久・西澤治彦(編)『中国文化人類学リーディングス』pp.153-169、東京：風響社。(原著：Ebrey, Patricia B. and James L. Watson, "Introduction." In Patricia B. Ebrey and James L. Watson(eds.), *Kinship Organization in Late Imperial China*, pp. 1-15. Berkeley: University of California Press.)2006.12.
- 川口 幸大 「書評『中国江南農村の神・鬼・祖先 浙江省尼寺の人類学的研究』」、『文化人類学』72巻4号, pp.533-537、2008.3.
- 川口 幸大 「生きたものへの執着」『月刊みんぱく』32巻5号, p.15, 2008.5
- 川口 幸大 「水ゴキブリ」を食べてみるかい?」『月刊みんぱく』33巻1号, pp.20-21、2009.1.
- 川口 幸大 「清明節 中国の墓参り」『季刊民族学』127号, pp.94-103、2009.1.
- 川口 幸大 「土の中まで変えられない」『月刊みんぱく』33巻4号, pp.22-23、2009.4.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式 共産党の政策と人々の志向のせめぎ合いのなかで」『SOGI』111号, pp.75-78、2009.5.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式 中国のお盆 孟蘭節の鬼供養」『SOGI』112号、pp.73-76、2009.7.
- 川口 幸大 「現代中国の葬儀式 一族の祖先祭祀」『SOGI』113号、pp.73-76、2009.9.
- 川口 幸大 「陳氏一族の栄華と革命の歴史を刻む 広東民間工芸博物館(陳家祠・陳氏書院)」『月刊みんぱく』34巻7号, p.14, 2010.7.
- 川口 幸大 「他者化をこえて」『勉強通信』28:2-3 (<http://www.bensey.co.jp/webpr/028.pdf>) 2010.12.
- 久保田 亮 「ヨガックでもてなし」『月刊みんぱく』2007年5月号, pp.6-7.

1-4 口頭発表

- 嶋 陸奥彦 「人類学と朝鮮社会史 - 個人的越境の体験 - 」、朝鮮史研究会第45回大会講演、2008.10.25。(仏教大学)
- 嶋 陸奥彦 「全南羅州郡文平面雲峰里龍土村大洞契冊에 관하여」国立韓国学

- 中央研究院第 48 回海外韓国学 콜로키움、2009.3.5.
- 嶋 陸奥彦 「家族関係から見た奴婢の姿 - 17 世紀末 ~ 18 世紀前半の大丘戸籍の事例から - 」朝鮮史研究会関東部会月例会、2009.5.16.
- 嶋 陸奥彦 「韓国 - 急変する社会の姿 - 」、斎理蔵の講座、2009.10.3 .
- 嶋 陸奥彦 「振り返る始まり、そしてその後」、国立民族学博物館共同研究特別シンポジウム『韓国研究の回顧と展望』、国立民族学博物館、2010.2.6.
- 沼崎 一郎 「自由の実践としてのフェミニズム教育」関係性の教育学会シンポジウム、2007.3.11 .
- 沼崎 一郎 「男性性の理論と人類学 「奇妙な男」の記述を超えられるか? 」日本文化人類学会、名古屋大学、2007.6.2 .
- 沼崎 一郎 「丈夫(ますらを)と手弱女(たをやめ)の反復 ~ 日本の男性性の多様な源流? 」男性性研究フォーラム、立教女学院短期大学、2007.12.1
- 沼崎 一郎 日本ジェンダー法学会プレ企画「DV殺人と正当防衛論」にて報告、お茶の水女子大学、2007.12.7 .
- 沼崎 一郎 国際ジェンダー学会「ワークショップ：“ジェンダー”を語り合う ~ 学ぶ立場から、教える立場から」にて報告、立教大学、2008.9.13.
- NUMAZAKI, Ichiro, "Cultural Models of Spousal Abuse: An Examination of Cases from Non-Western Societies", *Annual Meeting of the American Anthropological Association*, November, 19-23, 2008.
- 沼崎 一郎 日本ジェンダー法学会プレ企画「DV殺人と正当防衛論」にて報告、立命館大学、2008.12.5 .
- 沼崎 一郎 「男性性の暴力的構築 - 秋葉原 “通り魔殺人” 事件を例として」男性性研究フォーラム、関東学院大学、2008.12.20.
- NUMAZAKI, Ichiro, "Anthropology at Tohoku University amid Globalization ", *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, Institute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei, December, 15-16, 2009.
- NUMAZAKI, Ichiro, "Building Public Anthropology in Japan: An Experiment at Tohoku University ", *Anthropology of Japan in Japan*, 天理大学 , 2010.4.25.
- NUMAZAKI, Ichiro, "Building Public Anthropology in Japan: An Experiment at Tohoku University ", *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, Academy of Korean Studies, Seoul, September, 10-11, 2010.
- NUMAZAKI, Ichiro, "Too Wide, Too Big, Too Complicated to Comprehend: A Personal

Reflection on the Disaster That Started on March 11th, 2011” , *Annual Meeting of the East Asian Anthropological Association*, 国立民族学博物館 , 2011.9.8-10 .

川口 幸大 「文化をめぐる国家と村落社会の相互交渉 東南中国における死者儀礼・神祇祭祀・宗族組織を通して」、第 119 回東北人類学談話会：東北地区修士論文・博士論文発表会、東北大学、2007.3.9.

川口 幸大 「現代中国において歴史を記すこと 村誌編纂の事業を通して」、日本文化人類学会第 41 回研究大会・分科会『文字記録の文化人類学 東アジアのフィールドから』(代表：高山陽子)、名古屋大学、2007. 6.3.

川口 幸大 「寺廟の再興にみる社会主義的近代 広東省珠江デルタの事例から」、国立民族学博物館共同研究「社会主義的近代化の経験に関する歴史人類学的研究(代表：小長谷有紀)」、国立民族学博物館、2007.6.17.

川口 幸大 「廟の再建をめぐるポリティクス 珠江デルタの僑郷村落の事例から」、日本華僑華人学会 2007 年度大会、慶應義塾大学、2007.11. 17.

川口 幸大 「盂蘭節の鬼祭祀にみる神・鬼・祖先の現在 広東省珠江デルタの事例から」、東アジアにおける宗教文化の再構築 第 13 回研究会、慶應義塾大学、2007. 12. 8.

川口 幸大 「械闘未遂事件にみる宗族意識と死穢概念 広東省珠江デルタの一村落の事例から」、中国・四国地区研究懇談会(第 29 回中四国人類学談話会) アジアにおける集団の諸相 家族、親族、コミュニティの現在、広島大学、2008.7.12.

川口 幸大 「グローバル化のなかの家族と家屋形態の再編」、国立民族学博物館共同研究「中国における社会と文化の再構築 グローカリゼーションの視点から(代表：韓敏)」、国立民族学博物館、2008.11.16.

川口 幸大 「日本との比較を通してみた現代中国の葬送儀礼」、日仏交流 150 周年記念シンポジウム「転換期に立つ葬儀業：日仏比較の視点から」、日仏会館大ホール、2008.12.13.

川口 幸大 「中華民国期の宗族と村落社会」、東京都立大学・首都大学東京社会人類学研究会：第 748 回、首都大学東京、2008.12.18.

川口 幸大 「近代化のなかの在郷有力者の交代 郷紳の没落、土豪の台頭」、国立民族学博物館機関研究「東アジアの村落社会における「近代」の再考(代表：太田心平)」国際ワークショップ「東アジアの村落社会が見た「近代」地域の有力者層への着目から」、国立民族学博物館、2009.3.22.

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Lineage Revival and an Attempted Feud: Rethinking Kinship and Identity in Chinese Society.” Society for East Asian Anthropology, and Taiwan Society for Anthropology and Ethnology Conference, Institute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei, July. 2, 2009.

川口 幸大 「廟と儀礼の復興、およびその周縁化 現代中国における宗教のひとつの位相」、研究フォーラム「中国における社会主義的近代化に関する研究会」、国立民族学博物館、2010.1.30.

川口 幸大 「共産党の政策と墓・祖先祭祀の変遷 広東省珠江デルタの事例から」、国立民族学博物館共同研究「ポスト社会主義以後の社会変容 比較民族誌的研究 (代表：佐々木史郎)」、国立民族学博物館、2010.6.5.

川口 幸大 「「鬼」への祭祀にみる現代中国の儀礼と信仰 広東珠江デルタにおける孟蘭節の事例から」、文化人類学会第 44 回研究大会・分科会『現代中国における宗教 共産党の政策と人々のいとなみの諸相』(代表：川口幸大)、立教大学、2010.6.13.

川口 幸大 「祭祀空間としての家屋の変遷」、仙人の会 7 月例会、早稲田大学、2010.7.31.

川口 幸大 「村庄的社会变化與作為祭祀空間的房屋之變遷」、近代中国革命、社会轉型與國際視野 第四屆現代中国與東亞格局國際學術研討会、贛南師範学院、2010.8.28

KAWAGUCHI, Yukihiro, “Les rites l’explosion urbaine, le cas d’un village de la grande banlieue de Canton.” Colloque de clôture du projet ANR Funer Asie, La place des morts dans les mégapoles d’Asie Orientale: Japon-Chine-Corée, Campus CNRS Michel-Ange, Paris, Nov. 4, 2010.

川口 幸大 「村落社会における歴史・文化の再発見事業と華僑華人 珠江デルタ僑郷地域からの報告」、日本華僑華人学会 2010 年度第 3 回研究会、東亜大学、2010. 12.4.

川口 幸大 「現代中国において父系出自でつながるといふこと 華南の村落社会からの視点」、日本台湾学会第 13 回学術大会・分科会『親族から考える台湾漢族社会の特質 中国、韓国との比較を通して』(代表：上水流久彦)、早稲田大学、2011.5.29

川口 幸大 「人類学による中国研究の新たなパースペクティブ 宗族研究の新展開と社会保障」、仙人の会 30 周年記念シンポジウム「フィールドとしての

中国」、武蔵大学、2011.7.10.

川口 幸大「珠江三角洲の墳墓與祖先祭祀」“中華文明視野下的西樵文化”国際
学術研討会、西樵山大酒店、2011.7.15.

川口 幸大「中国村落社会與親族組織的轉變 以珠江三角洲的宗族為例」現代中
国與東亜新格局教学與研究工作坊、内蒙古大学、2011.8.21.

KUBOTA, Ryo, "Social Functions of School in a Native Village in Alaska", Center of
Social Stratification and Inequality Workshop, Tohoku University, Sendai, Japan,
March 13, 2007.

久保田 亮 「チュピック・エスキモー村落の「学校」 アラスカ先住民の社会的
的位置に関する一考察」、国立民族学博物館共同研究会「『先住民』とはだ
れか? - 先住民族イデオロギーの潜勢的 / 顕在的形態とその社会歴史的背
景に関する研究」、国立民族学博物館、2007.10.20。

久保田 亮「バックステージからみる「先住民の集い」 アラスカ先住民・チュ
ピックの社会関係に関する考察」、日本文化人類学会地区研究懇親会・第126
回東北人類学談話会 シンポジウム「連帯(つながり)の文化人類学 社会
関係の持続と変容」、東北大学、2008.11.29.

久保田 亮「ユピック舞台芸術の「知的所有権」- エスキモー・ダンスの創作・
流通・消費をてがかりに」、国立民族学博物館共同研究会「カナダにおける
先住民芸術の歴史的展開と知的所有権問題 - 国立民族学博物館所蔵の北西海
岸インディアンとイヌイットの版画の整理と分析を通して」、天理大学、
2009.7.12.

2 教員の受賞歴(2007~2011年度)

なし

教員による競争的資金獲得(2007~2011年度)

(1) 科学研究費補助金

嶋 陸奥彦 平成17~19年度 基盤研究(C)「韓国家族の歴史人類学的研究 -
奴婢階層の家族を中心に - 」(研究代表者)

嶋 陸奥彦 平成20~22年度 基盤研究(B)「現代社会における異文化共生の公共人
類学的研究 東アジアと北アメリカの比較」(研究代表者)

沼崎 一郎 平成18~21年度 基盤研究(C)「人権概念の比較文化的研究」(研

究代表者)

沼崎 一郎 平成 20~22 年度 基盤研究 (B) 「現代社会における異文化共生の公共人類学的研究 東アジアと北アメリカの比較 」(研究分担者)

川口 幸大 平成 23 年~25 年度 若手研究 B「中国農村部における社会保障についての文化人類学的研究」(研究代表者)

久保田 亮 平成 20 年度若手研究 B 「アラスカ先住民ユックピックによるコミュニティ発展に資する文化資源利用の研究」(研究代表者)

久保田 亮 平成 20~22 年度 基盤研究 (B) 「現代社会における異文化共生の公共人類学的研究 東アジアと北アメリカの比較 」(研究分担者)

(2) その他

川口 幸大 国立民族学博物館平成 21 年度リーダーシップ支援経費 (研究成果公開プログラム) 「中国における社会主義的近代化に関する研究会」

川口 幸大 東北大学東北アジア研究センター平成 22 年度「東北アジア地域」に関する共同研究「東北アジア地域における宗教の新たな展開」

教員による社会貢献 (2007 ~ 2011 年度)

嶋 陸奥彦 2004 年 8 月 ~ 2006 年 7 月 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 (2005 年 6 月 22 日より、独立行政法人 日本学術振興会 国際事業委員会 書面審査員 に変更)

嶋 陸奥彦 2007 年 8 月 ~ 2008 年 7 月 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査委員。

沼崎 一郎 キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク (ボランティア活動) (1997-)

沼崎 一郎 メンズ・サークル・みやぎ (ボランティア活動) (1998-)

沼崎 一郎 仙台女性への暴力防止センター (ボランティア活動) (2002-)

沼崎 一郎 内閣府男女共同参画局アドバイザー派遣事業派遣講師 (2006 ~ 2010)

教員による学会役員等の引き受け状況 (2007 ~ 2011 年度)

SHIMA, Mutsuhiko, Contributing Editor, *Korean and Korean-American Studies*

Bulletin, New Haven, USA: East Rock Institute (1985.11. ~ 現在)

嶋 陸奥彦 東北人類学談話会世話人 (1996.4. ~ 2009.5)

- 嶋 陸奥彦 日本文化人類学会 評議員 (2004.4. ~ 2008.3.)
- 嶋 陸奥彦 日本文化人類学会 理事 (2004.4. ~ 2006.3.)
- 嶋 陸奥彦 韓国・朝鮮文化研究会理事 (2004.4. ~ 2006.9.)
- 嶋 陸奥彦 韓国・朝鮮文化研究会運営委員 (2000.10. ~ 現在)
- 嶋 陸奥彦 比較家族史学会理事 (2002.4. ~ 現在)
- 嶋 陸奥彦 『韓国朝鮮の文化と社会』編集代表 (2007.10. ~ 現在)
- 嶋 陸奥彦 比較家族史学会第 50 回記念大会実行委員長 (2008.6.21 ~ 22.)
- 沼崎 一郎 現代中国学会理事 (2005.10 ~ 現在)
- 沼崎 一郎 日本台湾学会幹事 (1999.4 ~ 現在)
- 沼崎 一郎 日本文化人類学会 評議員 (2008.4. ~ 現在)

教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2011 年度)

教授 沼崎 一郎

- 1 大学院授業担当 文化人類学調査実習 ・ 、人文社会科学研究
- 2 学部授業担当 文化人類学基礎講読、文化人類学演習
- 3 共通科目・全学科目授業担当 言語表現の世界

准教授 川口 幸大

- 1 大学院授業担当 文化人類学研究演習 ・
- 2 学部授業担当 文化人類学基礎講読、文人基礎演習、文化人類学実習、人文社会総論
- 3 共通科目・全学科目授業担当 文化人類学、人文社会序論

(2) 他大学への出講 (2007 ~ 2011 年度)

教授 嶋 陸奥彦

放送大学宮城学習センター講師「時代と知 - 文化人類学の成立」(2006 年度)
 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部「韓国社会の歴史社会人類学」
 (2007 年度)

教授 沼崎 一郎

福島県立医科大学「文化人類学」(2001 ~ 2007 年)
 宮城教育大学「文化人類学」(2001 ~ 2007 年)
 宮城学院女子大学「ジェンダー論」(2001 ~ 2009 年)

宮城学院女子大学「現代社会と性」(2004～2008年)

准教授 川口 幸大

平安女学院大学「文化人類学」(2008年)

平安女学院大学「観光人類学」(2008年)

平安女学院大学「文化人類学」(2009年)

平安女学院大学「国際観光開発論」(2009年)

東北学院大学「文化人類学」(2011年～)

助教 久保田 亮

東北学院大学「文化人類学」(2009年～)